

わがまちを守る消防団

地域の安全安心を背負う

災害現場に駆けつける消防団は、消防団員たちの「自分たちのまちを守るぞ」という義勇の精神から成り立っています。今月は、地域の防災に欠かせない存在である、消防団を特集しました。

消防団とは

消防団の歴史は、江戸時代まで遡ります。当時は、都市の繁栄に伴い、頻繁に火災が発生していました。それをなんとかしようと、人々が集まり、力を尽

くしたのが「町火消」でした。この町火消は、今日まで続く消防団などの「義勇消防」の元祖とされています。

れました。そこで福津市でも、常備の消防組織として消防本部や消防署を、非常備の組織として消防団を設置しました。地方公務員として携わる消防職員と、市町村におけるボランティアとして携わる消防団員が力を合わせて、火災などの災害に対処することになりました。

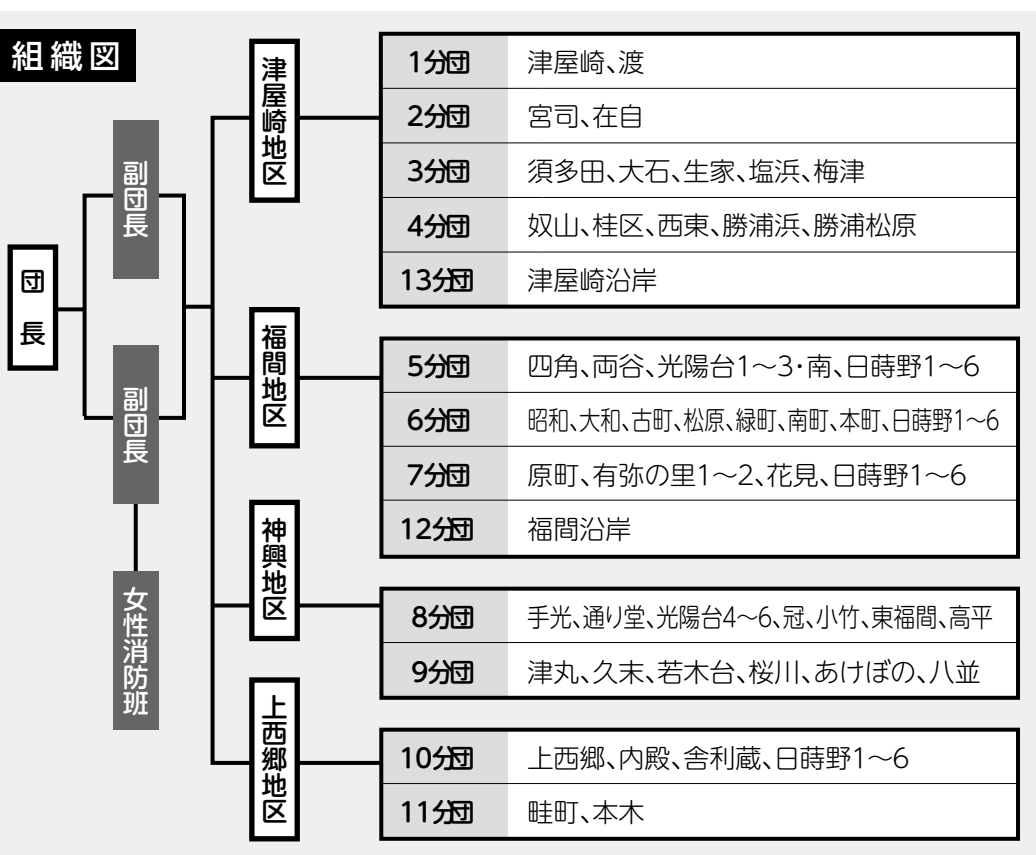
消防団の移り変わり

阪神淡路大震災や、東日本大震災などの甚大な被害をもたらす災害を経験し、消防団のあり方にも変化が現れています。平成25年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定され、消防団が将来にわたり欠くことのできないもので、代替性のない存在と

（消防団活動紹介「4月」参照）の県大会にも出場し、訓練の成果を発揮しています。



▲第2回福岡県女性消防操法大会に出場した女性消防班



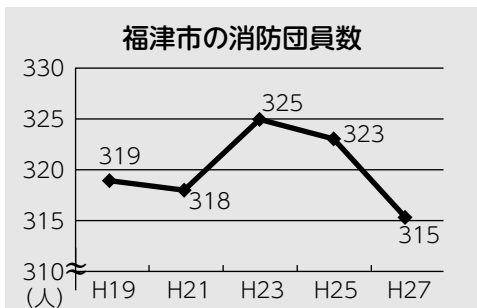
して位置付けられ、地域防災のなかで、さらに重要な役割を担うことになりました。

福津市の消防団

福津市消防団現在、13の分団と女性消防班で構成されていま

減少する消防団員

消防団員は全国的に減少しています。平成27年の消防団員は



約86万4千人ですが、88万5千人が所属していた6年前と比べると2万1千人も減少しています。年間に約4千人ずつ減少し続けてい

対する充足率は全国の92・9％と比較して、福津市は87・2％で、いずれにしても厳しい状況に置かれています。

団員の減少には社会の変化が大きく影響しています。かつては、地域で農業や漁業、商店などを営む人たちが消防団の主力を担っていました。しかし、現在では就業構造が変わり、消防団の活動への参加や、就業中の急な出勤が難しいサラリーマンが増加しています。また、日中に地域を離れて働くサラリーマンは地縁も薄く、消防団への興味を持てなくなっていることも原因と考えられます。

消防団 活動を紹介 します

消防団の活動は、火災などの非常時だけではなく、年間を通して行われています。器具の点検、消火栓の見回りなど、活動は多岐にわたります。ほんの一部ですが活動を紹介します。

1月 消防出初式

その年の仕事始めとして出初式が開催されます。消防関係者が一堂に会して、1年の防災への意識を引き締めます。



4月 操法大会（2年に1回）

素早い消火のための、消火用ポンプの操作方法などを披露する場です。厳しい訓練を積んだ団員たちが技術を競います。



6月 水防訓練（2年に1回）

梅雨時期の大雨への備えとして、水防訓練を実施しています。土のうの作成や積み上げなど、実践的な訓練を行います。



11月、12月 夜警

空気の乾燥などで火災が多くなるこの時期は、夜警をしています。消防車に乗り込み、火災への注意を呼びかけます。



消防団員を募集しています



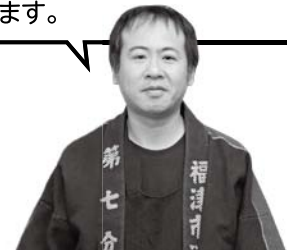
消防団員は、市民の皆さんが参加する、まちを守り、心をつなぐ自主的な防災のためのボランティアです。「地域を守る要」福津市消防団に入団してみませんか。

入団の要件など、詳しくは市生活安全課までお問い合わせください。

福津市生活安全課(福間庁舎)

問い合わせ ☎ 43・8107

地域の安全安心のため消防団活動がんばっています。



第7分団 田辺 秀之さん

消防団活動始めて人生観が変わりました。使命感満タンです。



第6分団 竹下 浩司さん

自分の住むまちを守る手伝いができればと思っています。



第5分団 佐々木 桃太郎さん



消防団長 吉田 浩一さん

消防団の活動をあまり知らない人が増えているように思います。私たち消防団は、地域に根差したあらゆる活動を進めて、積極的にコミュニケーションを取っていきたくと考えています。市民の皆さんも、消防団の活動に少しでも興味を持ち、応援してくれるとうれしいです。

とは、火災が発生させないことです。火災の発生の危険を少しでも減らすために、市民への注意喚起をするなど、火災予防にも努めています。

また、福津市は自然が豊かで、海も山も有ります。装備や訓練もその地域に合わせ、もしものときに、適切な対応ができるように備えています。さらに、災害への備え以外にも、それぞれの分団で地域のイベントなどに

も参加しています。活動はさまざまですが、地域に根づく消防団だからこそできる、細やかな取り組みの一つだと思います。

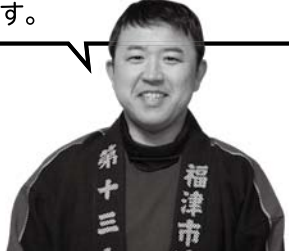
福津市は人口6万人を突破し、たくさん新しい家が立ち並ぶ地域もあります。しかし、福津市の消防団員数は定員を満たしていないのが現状です。さらに最近では、消防団と地域とのつながりが希薄になりつつあり、消防団の活動をあまり知らない人が増えているように思います。私たち消防団は、地域に根差したあらゆる活動を進めて、積極的にコミュニケーションを取っていきたくと考えています。市民の皆さんも、消防団の活動に少しでも興味を持ち、応援してくれるとうれしいです。

皆さんの命を守るため、私たち女性消防班もがんばっています。



女性消防班 濱口 百合子さん

団員みんなで、福津市の水上の安全を守っています。



第13分団 魚住 昌宏さん

水上に関わる万が一の事故では、私たちが出勤します。



第12分団 田畑 勝博さん

もしものとき、消防団は真っ先に駆けつけます。



第4分団 谷口 誠さん

地域の防災、安全安心のため消防団はがんばっています。



第3分団 花田 篤明さん

地域の安全安心や財産を福津市消防団で守っています。



第2分団 米満 道隆さん

生まれ育ったまちの安全のため団員一同がんばっています。



第1分団 嶋村 祐介さん

火災などの災害が起きたら飛び出していく消防団ですが、日頃は仕事の合間を縫って防火・水防訓練など万が一に備えた活動

動をしています。また、災害が起きたときに使用する、装備の点検や消火栓の保守も欠かせません。しかし、何より大切なこ

消防団は「きずな」で成り立っています



消防団員 集まれ

消防団員の皆さんに、消防団として活動する意気込みを伺いました。



地域の人々が安心して生活できるように、がんばって活動します。



第11分団 染矢 一郎さん

消防団として地域が同じ気持ちになることが大切だと思います。



第10分団 磯野 大輔さん

地域の皆さんが安心して暮らせるように、今後もがんばります。



第9分団 福田 和也さん

皆さんの地域の安全安心のため、日夜がんばっています。



第8分団 中村 英樹さん